

Faculty of Engineering Okayama University

岡山大学工学部 同窓会報

No.34
2022.8



Contents

工学部長挨拶	2	岡山大学での思い出と近況 嶽 未南子	20
代表幹事挨拶	3	「共育共創 commons」が誕生します	21
退職にあたって	4	寄付者一覧	22
各系の最近の話題	8	会計報告	23
工学部学科同窓会活動報告	11	同窓会事務局より	24
職場紹介	13	編集後記	24
各支部報告	17		

新しい「岡山大学工学部」—2年目を迎えて—



工学部長
菅 誠治

昨年ご報告したように、2021年4月にこれまでの工学部と環境理工学部が再編統合して、新しい「岡山大学工学部」が誕生しました。Society5.0 for SDGsの実践教育をスローガンとし、「幅広い視野をもち、社会課題を発見・把握し、主体的に解決できる創造的な工学系人材」を養成すべく、昨年度は教職員一丸となって、1年目の新カリキュラムを進めることができました。2022年度は一期生が2年生に進学し、10のコース（機械工学、ロボティクス・知能システム、都市環境創成、環境マネジメント、情報工学、ネットワーク工学、エネルギー・エレクトロニクス、数理データサイエンス、応用化学、生命工学）に分かれて、専門授業も本格的に始まりました。今回は大規模な組織改編であることに加えて、旧カリキュラムと新カリキュラムが同時並行で進行するため、正直大変な部分もありますが、皆様方からの、暖かいご支援も励みとして、引き続き教育・研究活動に邁進いたします。

昨年のこのお便りで触れさせていただきましたが、大人数が一度に入れる講義室を含めた新しい建物の構想が「共育共創コモンズ（仮称）」となって実現の運びとなりました。この学び舎建設のために同窓会の皆様にも多額のご寄付を頂戴いたしましたことに対して、工学部長として心より感謝と御礼を申し上げます（「共育共創コモンズ」については別項で詳細を記します）。

実は、もう一つ新しい建物の話題がございます。老朽化した工学部7、8号館等を廃止し、これらを集約して新しく「総合実験研究棟（工学系）（仮称）」を建設することになりました。これらは、いわゆる概算要求を認めていただき、建設する建物になります。主として、機械システム系、化学・生命系の実験設備が入ります。

この2年間はコロナ禍の中で、授業や実験・実習を遂行する上で、非常に難しい状況が続きました。とくに新型コロナウイルスの素性がよくわからない段階では、学生をキャンパスに入れてよいのかどうか、の議論もあり、大学全体としても難しい判断を求められました。未だに感染者数はやや高止まりの状況ではありますが、今年度からはキャンパスにも多くの学生が戻ってきました。対面授業を主としながら、対面とオンラインやオンデマンドを併用するハイブリッドあるいはハイフレックス型と呼ばれる授業も行うべく、インフラも徐々に整えつつあります。

以上、工学部の現状を簡単にご報告させていただきました。

工学部に対する同窓生の皆様方の変わらぬご支援と後輩への引き続きのエールを何卒よろしく願い申し上げます。

工学部 工学科	
機械システム系	機械工学コース ロボティクス・知能システムコース
環境・社会基盤系	都市環境創成コース 環境マネジメントコース
情報・電気・数理 データサイエンス系	情報工学コース ネットワーク工学コース エネルギー・エレクトロニクスコース 数理データサイエンスコース
化学・生命系	応用化学コース 生命工学コース

工学部同窓会からのご挨拶

新入生の皆さん、4月に入学されてから大学生としての生活にも慣れてきましたでしょうか。2020年から続く新型コロナ対策のため色々と制限のある大学生活となっていると思いますが、未来に向けて自分の夢を実現するためにキャンパスライフを楽しんでください。

今年2月のロシアによる軍事行動により、世界的に政情が不安定になっています。そして、エネルギーや食糧を海外からの輸入に頼っている日本では、円安も進んで電力、ガス、食料品をはじめとして多くの物が値上がりをしており、皆さんの大学生活にも少なからず影響を与えていることと思います。これまで円高の恩恵に預かるため、海外への技術移転が進んできましたが、これについても転換期がきているかもしれません。そのためには工学系の皆さんが技術力をスキルアップし、日本の技術力向上への活躍が待たれています。

昨年4月に新生工学部が誕生し、新入生と2年生は新しいカリキュラムで幅広く工学の基礎を学ばれ、またその後の各専門分野への入り口に立たれていることと思います。また3年生以上は卒業後の進路を見つめて活動を広げていることでしょう。工学部同窓会はそのような皆さんの支援を行うため、新型コロナが蔓延している中ではありますが、できるかぎりの範囲で活動を行っています。活動内容については工学部同窓会ホームページで紹介しています。この支援活動を有効に利用していただき、皆さんの飛躍と活躍による日本の技術力アップへの貢献を期待しています。

工学部同窓会では、支部活動も行っており、卒業生の相互の親睦と情報交換を行うことを目指しています。大学卒業後の活動および親睦の場として多くの同窓生が集い、ますます活躍の場を広げて行っていただきたいと願うばかりです。同時に全学同窓会とも連携を取り、他学部との同窓生とも連携の輪を紡ぎ、そして広げていってほしいと思います。

最後になりましたが、学生および同窓生の皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。



工学部同窓会代表幹事

船曳 繁之

(1976年電気工学科卒)

工学部同窓会の活動

- ① 会員名簿の整備：個人情報保護のため、冊子体での名簿発行は行わず電子媒体で名簿情報を管理しています。住所等の変更がありましたら、是非とも事務局までお知らせ下さい。
- ② 「岡山大学工学部同窓会報」の発行：毎年、8月初旬に発行しています。読んで頂ける会報を目指し、学内外の会員の活動情報を発信し、会員相互のネットワーク作りを目指しています。
- ③ 「岡山大学ホームカミングデイ」(毎年10月)における工学部同窓会総会、報告会、懇親会の開催：大学及び工学部で様々な企画があり、多方面で活躍されているOBと繋がりあう機会となります。
- ④ 各系同窓会の活動：各系同窓会の幹事が中心となって、系独自の行事—OBの企業体験講演会、見学会、交流会、各系教育支援活動、及び学部同窓会活動支援などを行っています。
- ⑤ 学部教育活動の支援：学部の講義等への講師派遣、オープンキャンパス、ホームカミングデイ行事等への支援を行っています。
- ⑥ 関東支部、関西支部、岡山支部の各支部活動支援、新支部創設活動の支援を行っています。
- ⑦ 岡山大学Alumni全学同窓会の活動を支援しています。
- ⑧ 会費：入学時に10,000円を頂いています。(全学同窓会：10,000円)

退職にあたって

「退職を迎えて」

機械システム系

見浪 護



平成 22 年 4 月に着任し、以来 12 年間お世話になりました。学科長や教務委員長などを通して、みなさまにお役に立つよう努めてまいりましたが、十分でなかった点についてはお詫び申し上げます。

教育では、ロボットの動力学を中心に、マニピュレータの運動方程式が非線形行列微分方程式で表されることなどについて講義させていただきました。学部の教育内容としては多少難しい内容であったのか、苦勞しつつ教育に励みました。コンピュータソフトで動力学を表現し、視覚的に運動の様子を再現することが容易な今の状況では、運動方程式の形を陽に意識することなく運動を理解したように感じられることは、良いことか悪いことか考えさせられます。

研究では、ステレオビジョンで 3 次元空間内の位置／姿勢を実時間で計測しロボットを制御する研究を、30 年近く続けました。産業応用分野としてロボットは工場内で数多く用いられていますが、空間計測に基づくロボット制御は、テーマとしては面白く、研究としても多くの未達成領域が残されている分野でした。しかしながら、産業応用として工場内での使用に限定すると、ニーズとの折り合いをつける部分が少なかったせいか、空間計測の重要性は、注目されることはなかったように思います。やはり動作環境として最も自由度が高い自然環境下でのロボット制御は、現在でも困難な課題です。

また、気中のロボットは GPS など電波を用いた機器が利用可能なことから、位置計測と制御が容易です。そのため、視覚による計測はモーションキャプチャーや製品検査などに限られているようです。しかしながら、岡山大学理学部附属牛窓隣家実験所沖の実海域での水中ロ

ボットの自動ドッキング制御では、注目を集めました。水中では電波が通らず GPS が使えないことが原因です。牛窓臨海実験所の協力を得て、実海域に常設水中ロボット実験施設（海に立てた“やぐら”）を建設し、深夜までドッキングの実験を行ったことが懐かしく思い出されま

す。深夜は、深海の水中環境を模擬できるという点で、必要な実験条件でした。牛窓臨海実験所の皆様、ご協力ありがとうございました。他にも、ヒューマノイドの歩行に関する研究なども行い、16 名の博士後期課程学生の指導を行いました。特に、ミャンマーからの 3 名の博士後期課程留学生の指導をしたことは印象深く、現在の軍事政権下でも生き延びていることを願うばかりです。3 名のうちの 1 名は男子で、アウンサンスーチー氏の父で、ミャンマーの独立を成し遂げたアウンサン将軍の写真をコンピュータの待ち受け画面にしていました。生き残っていてほしいものです。

海の研究では、水中ロボットの開発やメンテナンスなど、気中での一般的なロボットでは気にしなくても良いことも注意を払わねばなりません。学生たちが実験を行い、卒業論文や修士論文をまとめる時期が 11 月～1 月と、最も寒い時期と重なることも、大変でした。

科研の研究テーマである水中複眼カメラを用いた魚の自動寸法計測システムに取り組んでいます。計測方法は動物が持つ複眼視差利用の空間認識能力を工学的に実現した手法です。特徴は、任意対象物（魚を含む）の位置姿勢計測を可能とし、カメラと魚の間の距離が計測できることから、泳ぐ魚の寸法計測が可能なことです。本手法を高齢化が進む過疎地域での「陸上養殖漁業」に適用し、魚体寸法計測、給餌量制御、出荷時期推定などを行うことができる育成管理システムの構築を目指しています。

海の研究を中心に、現在までの歩みを振り返ってみたいわけですが、これまでの教育・研究の活動では、多くの方々にお世話になりました。改めてお礼を申し上げます。最後に、岡山大学のこれからの発展と、皆様のご健勝・ご活躍を祈念いたします。皆様、ありがとうございました。

環境研究を岡山大学で終えて

環境・社会基盤系

川本 克也



2013年の12月初めはこの時期にしてはとても強い寒気が日本列島にやって来て、岡山もそのような寒さの中で年の暮れを迎えていました。8年4か月に及ぶ岡山大学大学院環境生命科学研究科での教育・研究は、そのように記憶される季節の中で始まりました。2000年代初頭に廃棄物行政の環境省移管があり、また1990年代のダイオキシン問題への社会的関心の高まりの余韻がまだあった時代から約12年を過ごした(独)国立環境研究所を辞して、再び大学の場にもどったのでした。戻った、と記したのは研究所に移る前は、私は私立の関東学院大学(横浜市金沢区)の教員であったからです。

このように大学教員は初めてではなかったのですが、大学を離れていた間に取り巻く状況は大きく変わったことを知ることになりました。もっとも強く感じたのは、教育と研究を進めるための予算建てが非常に細っていたことでした。競争的資金を獲得することへの流れと取り組みは独法の研究所においても同様でしたが、やはり切迫感は大変の方が大きかったと思います。

さて、遡ると50年近くも前に、私は公害問題に強く関心を持つこととなり、それに対し汚染防止の技術の面からアプローチしようと思い、工学部の枠組みで水質汚濁防止や排ガス浄化など環境汚染防止工学といった分野で学び、キャリアをスタートさせました。おおよそ1980年頃から今に至る40年余を振り返る紙幅はなく詳細は省きますが、下水処理場、地方公害研究所、環境プラントエンジニアリング企業といったいずれも実社会との間に立つ場を経験したことに加えての上記の研究所と私立大学、岡山大学であったのです。

私の研究は、実験を通じた技術研究が主体なので、装置を組み立てて、例えば熱化学的なプロセス実験を行い、化学物質の分析機器を使用して測定を行い解析するという方法論です。土木系のカリキュラムの中、講義の一部に加えても、各種媒体中の非常に低濃度の物質測定は学生も初めての経験であったわけですが、卒業研究、修士論文研究等を進める中で彼ら自身が習得し、最後は論文

として成果を残していってくれました。論文博士を含めて博士2名、修士7名、学士20名余りを送り出しました。

修士には中国からの留学生が多く指導に苦心した面もありましたが、とても優れた学生もいて、彼らが実社会で活躍する姿をみると大学教育に携わった者としてとてもうれしく思います。また、学術論文の執筆が研究活動の一つの要素だとすれば、私はキャリア初期を実務で過ごした分そのような場への参入がやや遅れましたが、岡山大学在職中に査読付き論文の数を3桁にできたことはささやかな達成かと思っています。

最後に、岡場で印象深かったこととして、市内の西側緑道(写真1)にみられるような典型的な水の景観、心地よい水辺空間の存在をあげたいと思います。大学の津島キャンパスにも水路があって、わずか数メートルの幅ですが、毎日これを渡って北側キャンパスの研究室に通ったことがすでに懐かしい思い出に変わりつつあることを実感しています。私の住む横浜市では大岡川という市中心部を流れる河川沿いの桜(写真2)が、とても美しい景観を見せてくれます。

現在私は、環境省による競争的研究資金課題のプログラムオフィサーの仕事を行っており、優れた環境研究の成果が世に出ることを微力ながらサポートしています。岡山大学においても、高水準の研究成果が多数生まれ、その存在感が高まることを祈念しています。8年余り、大変ありがとうございました。



写真1 西側緑道公園水上広場



写真2 横浜市大岡川と桜の景観

35年間お世話になりました

情報・電気・数理データサイエンス系

栗原 考次



岡山大学には1987年4月教養部統計学教室に講師として着任し、35年間お世話になりました。当時から岡山大学は統計学の教育・研究が盛んで、統計学Aとして数理統計の基礎、多変量解析の基礎と応用、統計学BとしてBasic, Fortran, CASL等のプログラム言語、ソフトウェア・ハードウェアの基礎知識、文書作成、表計算、ホームページ作成に関連した情報処理を幅広く教育していました。1994年に環境理工学部が設置され、統計関係の教員が環境理工学部に移動したこともあり、統計学Aは記述統計と推測統計の基礎、統計学Bは情報処理の基礎についてかなり内容を絞って開講することになりました。

近年、政府が進めている「AI戦略2019」「AI戦略2021」の教育改革等を中心に「数理・データサイエンス・AI」教育が推進されています。そのような環境下、文部科学省の平成31年度（2019年度）共通政策課題（数理及びデータサイエンスに係る教育強化）において、岡山大学の事業名「文系から理系までの学生を遍く対象とする数理・データサイエンス教育プログラム」が協力校20大学の一つとして選定されました。そこで、タスクフォースを設置し、e-learningを活用した授業内容の検討及び全11学部のカリキュラム調整等を行い、2021年度から数理・データサイエンス・AI教育を全学部の必修科目として開講しています。タスクフォース議長として、岡山大学の数理・データサイエンス・AI教育の充実に貢献できたことは良かったと思います。また、新生「工学部」における数理データサイエンスコースの設置は、統計学・データサイエンス教育・研究に長年携わってきた私には嬉しいことです。

研究面では、1999年文部科学省の在外研究員としてアメリカ滞在以来研究を進めている空間統計学におけるエシエロン解析を日本発の手法として世界に発信すると

もに、エシエロン解析の理論と応用に関する論文及びそのソフトウェアを公表しています。また、環境理工学部、環境生命科学研究科において私の研究室から博士12名、修士28名、学部25名の学生を社会に輩出することができ、岡山大学での人材育成にある程度は貢献できたのではと思っております。

管理運営面では、2009年から環境理工学部長を担当しましたが、環境理工学部は工学系の学部として登録されており、工学系の学部としての活動も積極的に行いました。学部長担当の期間は、輪番制で多くの役割を担当しなければならず、中国四国国立大学工学部長会議の主催校としてホテルグランヴィア岡山での開催、6大学工学部長会議の主催校として全日空ホテル岡山での開催、さらに、全国国立大学工学部長会議の幹事校として多くの工学部関係の運営に携わりました。当時は、理系離れや民主党政権での事業仕分けなどが問題となっており、種々の課題に対する文部科学省との打ち合わせ、「日本の学術および科学技術に関する緊急宣言」などの活動を行うとともに、学生の確保に関連する各種イベントの企画など積極的な活動を行いました。その後、森田潔学長時代に副理事、副学長を担当し、グローバル人材育成院の設置、L-caféの拡張、国際バカロレア入試の全学部展開など多くの経験をさせていただきました。こうした活動においては、多くの教員の方々とともに事務職員の方々にも大変お世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。

この4月からは京都女子大学データサイエンス研究所長に就任し、2023年4月設置予定のデータサイエンス学部の初代学部長としてデータサイエンス教育に携わる予定です。立場は変わりますが、今後もデータサイエンス教育に力を注ぎたいと思っております。

最後になりましたが、学部においては、モチベーションの高い生徒を確保し、しっかりした教育を行い高度な技術者を育成することが重要です。新生工学部で各先生方が研究を推進するとともに、こうした学生の育成に力を注いでいただければと思います。工学部の益々の発展を期待しております。

飽くなき挑戦

化学生命系

妹尾 昌治



1992（平成4）年1月に工学部生体機能応用工学科に着任して以来、30年と3ヶ月工学部でお世話になりました。製薬会社の一研究員から転職してこの30年の中で、遺伝子工学、機能性タンパク質、組織再生、ドラッグデリバリーシステム、そしてがんへと時代の流れと共に変遷を重ねつつ研究に取り組んできましたが、紆余曲折ながらも自身の研究を成長発展させ、それを糧に国内外の学生を教育し、その結果、34人の博士を輩出できたことで、今は一段落した思いです。長い時間をかけてようやく生命というものを自分なりに理解できてきた様に思う傍ら、若い頃に生物工学を目指した思いを再度噛み締め、ご多分に漏れず「少年老い易く学成り難し」とはよく言ったものと感慨に老ける今日この頃です。しかしながら、がんを通して生命を再度見つめる糸口を感じ取り、研究に対する好奇心はまだまだ達成感にはほど遠く、新たなスタートを切って研究を継続することにしました。周囲の方々には、寄付研究部門の開講にご協力いただき、その機会を提供いただけたことには只々感謝です。徳川家康の遺訓のとおり「人の一生は重荷を負うて遠き道を行くがごとし」と心が引き締まる思いです。この遺訓は、「急ぐべからず」と続きますが、そう思う反面、時間は限られておりそういう訳にもいかないと思う気持ちも半分です。

今更ながらに思い返してみると、組織でさえも人間的変遷を辿っているような気がします。着任当時の工学部には生命系の学科が生物応用工学科と合わせて2学科で

した。文部省（当時）が国立大学の工学系に設置した生物関連の組織は東工大の生命理工学部と岡山大学工学部の2学科で、東と西を分けて新設されたという話を着任当時に伺った記憶があります。その後、この2学科は統合され生物機能工学科となりましたが、改革の流れに沿って、化学系と統合して化学生命系学科となりました。大学全体の流れでもこの30年間で、教養部解消、環境理工学部設置、同時に工学部から土木工学科と化学系の一部が離れ、年次進行で大学院環境学研究科設置、同時に大学院自然科学研究科が改組され、農学系が環境学研究科へ移り、その後、薬学系も医歯学系へ編入され大学院の重点化が始まったと思います。さらに、時を前後して大学自身が法人化されました。教員の肩書きも助手、助教授が助教、准教授へと変わりその役割も独立色が強調されていきました。この間、授業評価アンケート、教員評価、ファカルティデベロップメントが始まりました。私自身は、この流れの中で、医工連携の活動、異分野融合の旗を振り、その結果自然科学研究科を改組して医用生命工学専攻設置、医工連携と文理融合を基盤とする大学院ヘルスシステム統合科学研究科の設置と立ち上げに関わってきました。その後も、大学は教教分離を遂げて学術研究院として教員組織は学域となり、学部と研究科は教育の場となって、工学部は環境理工学部と融合して新たな工学部がスタートして一年余り経ち現在に至っていることは皆様ご存知の通りです。私が目の当たりにしたこの30年間の組織改革は、今後も止まることはなく、他大学との競争の中であって常に飽くなき挑戦が続きます。おそらく、到達すべき目標は時代背景により変遷するため「遠き道」となるのでしょう。しかし、時代に沿った変革を続け、工学部は元より本学が今後も研ぎ澄まされた存在になって、皆様の発展を築く礎になることを願って已みません。

機械システム系の近況報告

機械システム系・系長 岡安 光博



2021年度に工学部は統合再編し、2年目を迎えました。機械システム系は、機械工学コースとロボティクス・知能システムコースの2コースで構成されており、両コースは、再編前の機械工学コースとシステム工学コースに相当します。構成員や研究室など、再編前と大きな変化はありませんが、新工学部になり、コミュニケーション論、数理データサイエンス科目、SDGs関連科目など、全系開講授業が新たに設置されました。現在、新型コロナウイルスの問題で、授業のオンライン化などの制限はありますが、徐々に対面による授業が増えています。機械システム系では、多くの産業技術分野で活躍できる技術者を育成するために、機械システム工学の基礎学力や応用能力を養う教育だけでなく、課題探求能力、デザイン能力およびコミュニケーション能力を高める教育プログラムを実施しています。また高い倫理観を持って国際的に活躍できる人材の育成にも取り組んでいます。

工学部1号館の北側にある工学部8号館（機械システム系実験室）は、建物の老朽化により取り壊すことを予定しています。新たな建物は、津島キャンパス北東



工学部8号館

にある駐車場に建てることとなります。今後、良い環境で、研究活動に取り組むことができると思います。

近年、機械システム系の前期入試の倍率が低迷しております。2倍を守れるよう教職員は、広報活動に取り組んでいます。入試倍率の低下は、機械システム系の存続にかかわりますので、機械システム系の良さを高校生にアピールしていきたいと思っています。

今年度のオープンキャンパス及びホームカミングデーは、来学方式で実施する予定です。多くの同窓生には、是非ご参加いただきたいです。

最後に機械システム系の教員移動について紹介します。令和4年3月31日付けで、ロボティクス・知能システムコース見浪護教授が定年退職、渡邊桂吾特別契約職員教授（特任）が任期満了退職、土井俊央助教が令和4年4月1日付けで大阪公立大学に講師として転出されました。新たなメンバーとして、令和3年10月1日付けで、アラム モハマドモクタディル特任助教がロボティクス・知能システムコースに採用、令和4年4月1日付けで、真下智昭教授がロボティクス・知能システムコースに、小橋好充准教授と荒川仁太助教が機械工学コースに着任されました。そしてロボティクス・知能システムコース松野隆幸教授が令和4年4月1日付けで准教授より昇任されました。

〈訂正〉
2021年No.33に掲載いたしました活動報告の写真のキャプションを次のように訂正いたします。「工学部オンライン国際交流活動（機械システム系学生含む）」

環境・社会基盤系より

環境・社会基盤系・系長 近森 秀高



環境・社会基盤系は、令和3年度から新工学部での研究・教育をスタートし、無事1年が経ちました。おかげさまで、工学部新入教員のわれわれも新工学部での活動に馴染んできました。新工学部は発足2年目に入り、新工学部入学生に授業を行う機会も増えてきました。私は、ま

だ2年生対象の授業を担当しておりませんが、どのような学生さんが授業を受けに来るのか、楽しみでもあり気がかりでもあります。

環境・社会基盤系1期生は、2年次への進級時に都市環境創成コース、環境マネジメントコースのそれぞれに配属され、各自のコースの「コース科目」を履修しています。授業の専門性も次第に高くなってきており、他系の学生同様これからが頑張りどころです。

環境マネジメントコースは、2年次のコース配属後

は、同じコースで卒業まで勉学を続けます。都市環境創成コースでも卒業まで同じコースで勉学を続けますが、3年次以降の授業に、土木教育と建築教育の2つのプログラムが用意されている点が環境マネジメントコースと異なっています。新工学部発足と同時に創設された建築教育プログラムは、系の学生からも受験生からも高い関心を集めています。系としては喜ばしい限りで、他のコース、プログラムも併せて魅力的な研究教育に取り組んでいきたいと思っております。

昨年度は、新工学部初年度ということもあり、さまざまなイベントがありました。

6月11日には、都市環境創成コースの主催で、新工学部設立記念講演会がZoomによるオンラインで開催され、岡山大学特別招聘教授の建築家、隈研吾先生から「建築と都市の未来」と題するご講演をいただき、講演後は学生との懇談にもご参加いただきました。

また、9月29日に岡山コンベンションセンターにて開催された「新生工学部発足シンポジウム」では、午後の部でプレゼンセッションが行われ、新工学部の各系・

コースの先生方により計17件の発表が行われました。環境・社会基盤系からは、珠玖隆行先生、竹下祐二先生、辻本久美子先生、前田守弘先生、比江島慎二先生がそれぞれ最新の研究成果を披露され、討議が行われました。新しく工学部に加わったわれわれの研究内容を紹介する機会となり、また、工学部の各系・各コースで行われている研究内容を知るための貴重な機会ともなりました。

新型コロナウイルス感染症は相変わらず流行が続いております。昨年度の新工学部発足当時は、まだまだオンライン主体の授業を行わざるを得ず、教員、学生ともにストレスが溜まる毎日でしたが、「講義」、「演習」、「実験」といった教育活動を見直す機会になりました。本年度は、感染症への対応も進み、対面授業も積極的に進めようとしているところです。コロナ禍での出来事を振り返りつつ、今後の工学部での研究・教育について考えていきたいと思っております。

同窓会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

情報・電気・数理データサイエンス系の近況報告

情報・電気・数理データサイエンス系・系長
豊田 啓孝



同窓生並びに旧教職員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。系を代表して情報・電気・数理データサイエンス系の近況をご報告申し上げます。

工学部と環境理工学部の再編統合により、昨年4月に情報工学コース、ネットワーク工学コース、エネルギー・エレクトロニクスコース、数理データサイエンスコースの4コースを有する情報・電気・数理データサイエンス系としてスタートし、2年目を迎えました。18歳人口の減少や大学入学共通テストの大幅難化などの影響を受けながらも、志願倍率は一般選抜の前期日程が2.0倍、後期日程が6.8倍と健闘し、最終的に留學生4名を含む203名が2期生として入学しました。学生の教育研究を60余名の教員が担っていますが、昨年度から次の教員の異動がありました。4月に高岸茉莉子講師、小寺雄太助教、網田錬助教の3名が着任、日下卓也先生が准教授に昇任されました。一方、栗原考次教授、山根延元准教授、青山崇洋准教授、山本倫生准教授が3月までに退職されました。

情報・電気・数理データサイエンス系では、Society 5.0を支える技術である人工知能(AI)、IoT、ビッグデー

タなどに通じた人材を輩出する教育プログラムを提供します。1年次は数学や物理などの専門基礎科目と系のガイダンス科目などを学ぶことで専門の及ぶ範囲を広く認識し、2年進級時に4コースのうちの1つを選択した後は、それぞれのコースで学びを深化させます。昨年度入学した1期生は他系からの転系した学生を含め、情報工学コースで63名、ネットワーク工学コースで54名、エネルギー・エレクトロニクスコースで50名、数理データサイエンスコースで32名が2年生として学び始めました。系の共通科目として設定された4つの系科目(統計データ解析基礎、フーリエ解析・ラプラス変換、数値計算法、情報理論)は、コースに依らず全員が学べるため8割以上が履修しています。

昨年の年度初めは新型コロナウイルス感染症のアルファ株第4波の最中で、対面授業の実施が非常に困難な状況でしたので、やむなくオンライン授業を行っていました。一方、今年はオミクロン株の流行で新規感染者数は昨年に比べて多いものの重症化する割合が低いことから、不織布マスクの着用、体調管理、周囲との距離の確保、適切な換気などの徹底により、対面授業を実施しています。音響設備を整備した一部の講義室を使用する講義では、対面とオンラインを学生が選択できるハイフレックス授業も行われています。

情報・電気・数理データサイエンス系としての2年目

が開始しました。コロナ禍で様々な制約を受けつつも、工夫をしながら教育研究を行っています。皆様には引き

続きご支援、ご鞭撻を賜りたく引き続きよろしくお願い致します。



1年次第1学期開講の「工学基礎実験実習」(左)と「情報・電気・数理データサイエンス系入門」(右)の授業の様子

化学・生命系の近況報告

化学・生命系・系長 今村 維克



令和3年4月より旧化学生命系学科と旧環境理工学部環境物質工学科が融合し、新工学部工学科「化学・生命系」として生まれ変わりました。今年度新たに新系の入学生を迎えるとともに前年度の新入生は2年生となり、各自の希望により「応用化学コース」と「生命工学コース」に配属されました。いずれの

コースにも「環境」の視点を置きつつ、応用化学コースでは物理化学、無機化学、有機化学を「コア」とする講義・実験科目を履修し、生命工学コースではさらに「生化学」を軸とする科目が配置されています。また、今年度実施する3年次編入試験は、これらコースごとの実施となります。

講義の実施形態については、令和3年度はまさに過渡期でした。年度当初はリモート形式の講義が主体でしたが、順次、対面講義にシフトしつつあり、今年度は対面形式主体で講義が実施されています。対面講義が再開されるにつれて(十分な収容定員を持つ)講義室の不足や、通学等でのコロナ感染を危惧して依然、登校を躊躇する学生がいるなど、いくつか問題が顕在化していますが、本来の大学生活を取り戻すためにも、対面講義を拡充できればと考えています。

研究活動については、各研究室により入室者数を管理することにより、ほぼ例年通りの活動が実施できたようです。研究室に配属された学生には(院生にも)前年度までにマスクの着用や手洗い、換気、飲食時の留意事項が浸透しており、海外渡航や留学生の受入以外は大きな障害は見受けられませんでした。また、研究成果を発表する場である学会は依然、リモート開催が多数を占めましたが、出張経費を

節約できたり、学生にとっても発表のハードルが下がるなど、悪いことばかりではなかったようです。尚、博士前期課程の特別研究発表会は今年度も対面で実施し、本来の張り詰めた雰囲気での質疑とdefenseを繰り広げることができました。

教員の異動としては、まず、令和4年3月31日付けでヘルスシステム統合科学研究科の妹尾昌治教授(ナノバイオシステム分子設計学分野)、村上宏准教授(1分子生物化学分野)が定年退職されました。後任として、平成4年4月1日付けで蛋白質医用工学の二見淳一郎准教授(研究教授)が教授に昇任(蛋白質医用工学分野)され、平野美奈子准教授(1分子生物化学分野)が光産業創生大学院大学より着任されました。同じく同年4月1日付けで本学特任助教の森友明講師と本学博士後期課程を早期修了した大塚里美助教がそれぞれ生体機能設計学分野および細胞機能設計学分野に着任されました(ともにヘルスシステム統合科学研究科)。また、自然科学研究科においては同年4月1日付けで山崎賢助教(有機金属化学分野)がオックスフォード大学より着任されました。



対面での授業風景：以前より真面目に話を聞いてくれる気がします。

工学部学科同窓会活動報告

機械システム系 同窓会

機械システム系

役員

- ・学外幹事 尾崎 公一 (H12修) 松岡 大樹 (H22卒)
- ・学外幹事 大西 孝 (H18卒, 機械工学コース担当)
- ・学外幹事 山口 大介 (H21卒, ロボティクス・知能システムコース担当)

活動概要

1. コース共同の新入生に対する入会案内
2. 現役学生への支援
 - ・機械工学コース「感振系エンジニアの歩き方」の後援
 - ・オンライン会議用の備品購入
 - ・ロボティクス・知能システムコース：学習環境、就職環境向上のための寄贈

「感振系エンジニアの歩き方」の後援 (機械工学コース)

- ・機械系卒業生が集い、在校生への財源もぎめで卒業を促す
- ・交流会の後、職種等同窓会主催の懇親会を行い、交流を促進
- ・卒業生と在校生をつなぐ、両者の役に立てる企画

年度	出席者数
2016年度	100社
2017年度	54社
2018年度	39社
2019年度	46社
2020年度	108社
2021年度	80社(オンライン)



和やかな雰囲気
の交流会

- ・オンライン会議用の備品購入
- ・Web会議用のビデオカメラやスピーカーフォン等を購入し、機械工学コースの卒論・修論発表で活用 (2021年度)



カメラ
スピーカー
フォン

学習環境、就職環境向上のための寄贈 (ロボティクス・知能システムコース)



※黒プロジェクト、スクリーン、テレビ

現役学生のための寄贈活動

- 超短焦点型液晶プロジェクターとスクリーンを2式寄贈 (2013年)
- 就職情報掲示のための掲示板 (2015, 2018年)
- 無線アクセスポイント(AP)の設置 (2018年)

環境・社会基盤系 都市環境創成コース同窓会

環会

工学部土木工学科 } 系列の同窓会
環境理工学部環境デザイン工学科 }
工学部環境・社会基盤系 都市環境創成コース }

役員

- ・会長 河田孝志 (土木1期)
- ・副会長 三村富士男 (土木2期)、竹下祐二 (土木4期)
- ・監事 大田 昇 (土木17期)、安木清史 (土木19期)

主な活動

- ・卒業写真および入学写真の撮影と配布【3月、4月】
- ・ホームカミングデイ「卒業生を囲む会」の開催【10月】
- ・環会名簿、会報の発行【12月】
- ・現役学生への支援(現場見学会、就職説明会等)【随時】

1. 行事報告 (含む関連行事)

- ・「岡山大学新工学部設立記念講演会」(2021年6月11日)
- ・「林業・木材・木造建築教育・研究ゾーン構想検討委員会設立記念シンポジウム」(2020年11月4日)
- ・「環会40周年記念行事」(ホームカミングデイ「卒業生を囲む会」及び環会総会、懇親会) (2018年10月20日)



元岡山大学学長の河野伊一郎先生による特別講演

2. 卒業写真および入学写真の撮影と配布



環境・社会基盤系 環境マネジメントコース同窓会

拓水会(環境マネジメントコース)

役員

- ・会長 小橋 浩二 (S54)
- ・副会長 細川 信佳 (S61)、原 聡 (H12)

「拓水会」は旧岡山農業専門学校(昭和24年卒)から続く、岡山大学 環境理工学部 環境管理工学科、工学部 環境・社会基盤系 環境マネジメントコース、並びに農学部生産システム工学分野の同窓会です。

1. 学外研修・ホームカミングデイの後援

- ・在学生が授業内で行う「学外研修」の後援、補助を行っています。



- ・学科と「ホームカミングデイ」を共催しています。



2. 「拓水会誌」の発行

- ・年に一度、同窓会誌「拓水会誌」の発行を行っています。

拓水会誌第57号2021

- ☆ 巻頭言 ☆ インタースHIP報告
- ☆ 新任挨拶 ☆ 近況
- ☆ 報告 ☆ 事業報告
- ☆ 寄稿 ☆ 研究室だより
- ☆ 10年十色 ☆ 編集後記




<その他の活動>






- 総会・新年会
- 新入生記念品贈呈
- 卒業生記念品贈呈
- 教育貢献部会 評価委員会

工学部学科同窓会活動報告

情報・電気・数理データサイエンス系 情報同窓会

<p>情報工学コース同窓会活動報告 情報工学コース 渡邊 聡</p> <p>役員 幹事(学外): 池本文典(内山工業(株), H3卒) 幹事(学内): 藤嶋 誠也</p> <p>活動概要 1. 情報系学科ホームカミングデイの活動報告 2. 情報系学科同窓会(情報工学会)の活動</p>	<p>1. 情報系学科ホームカミングデイの活動報告</p> <p>(A) 研究室訪問 教員と情報系学科OBとの交流の場</p> <p>(B) 研究室紹介イベント ポスター形式で研究室の活動内容を紹介</p> <p>(C) 「OB、現役生、教員の交流イベント」 (1) 情報系学科長による学科の近況紹介 (2) 情報工学科OBによる講演会</p> <p>(2022年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため実施)</p>	<p>2. 情報系学科同窓会(情報工学会)の活動</p> <p>情報系学科のトピック: 学外研修の原景会(情報系学科3年生の授業の一貫で実施)を支援(2021年度は新型コロナウイルス感染症対策の活動制限のため実施)</p> <p>【過去の見学会】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大塚放射光施設Spring-8とX線自由電子レーザー施設SACLA見学(2019年9月30日) 2. JFEスチール株式会社西日本製鉄所見学(2018年9月28日) 3. NTT西日本広島データセンター見学(2017年11月30日) 
---	--	--

情報・電気・数理データサイエンス系 電気・通信同窓会

<p>電気通信系同窓会の活動</p> <p>卒業生と在学生の交流イベントを開催しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業生OB・OGとのキャリア形成のための意見交換会 就活キックオフ   <p>学科同窓会ホームページ</p>	<p>卒業生OB・OGとのキャリア形成のための意見交換会</p> <p>例年、10月のホームカミングデイに併せて学内で開催</p> <ul style="list-style-type: none"> 就職活動が本格化する前に学内で開催 電気通信系学科卒業生が来学し、在学生へアドバイス 内容は卒業生による講演と質疑応答、およびランチン会 目的 <ul style="list-style-type: none"> 業務内容や研修について在学生に具体的な情報を提供 先輩後輩による本音も含む情報交換  <table border="1"> <caption>実績(過去5年)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>卒業生数</th> <th>参加者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2017</td> <td>7名</td> <td>21名</td> </tr> <tr> <td>2018</td> <td>8名</td> <td>34名</td> </tr> <tr> <td>2019</td> <td>7名</td> <td>37名</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>コロナ禍のため開催せず</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	卒業生数	参加者	2017	7名	21名	2018	8名	34名	2019	7名	37名	2020	コロナ禍のため開催せず		2021			<p>卒業生交流会</p> <p>就職活動が開始する直前の2月に学科と共催で開催、同窓会は来賓子を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 電気通信系学科の卒業生が来学し、所属各企業を紹介 2019年から従来行っていた就活キックオフを改編し、9月1日で開催 ブースでの各企業の紹介、及び、個別説明会  <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>ブース参加企業</th> <th>個別説明会参加企業</th> <th>参加学生</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2019</td> <td>46</td> <td>36</td> <td>約100名</td> </tr> <tr> <td>2020</td> <td>60</td> <td>37</td> <td>約100名</td> </tr> <tr> <td>2021</td> <td colspan="3">コロナ禍のために</td> </tr> <tr> <td>2022</td> <td colspan="3">開催せず</td> </tr> </tbody> </table>  <p>個別説明会(2020年)</p>		ブース参加企業	個別説明会参加企業	参加学生	2019	46	36	約100名	2020	60	37	約100名	2021	コロナ禍のために			2022	開催せず		
年度	卒業生数	参加者																																						
2017	7名	21名																																						
2018	8名	34名																																						
2019	7名	37名																																						
2020	コロナ禍のため開催せず																																							
2021																																								
	ブース参加企業	個別説明会参加企業	参加学生																																					
2019	46	36	約100名																																					
2020	60	37	約100名																																					
2021	コロナ禍のために																																							
2022	開催せず																																							

情報・電気・数理データサイエンス系 数理データサイエンスコース同窓会

<p>数理データサイエンスコース同窓会</p> <ul style="list-style-type: none"> 「数理データサイエンスコース同窓会」は、環境理工学部環境数理学科の教員・卒業生らが中心となり、2021年4月に新たに発足しました。 「境数理学科同窓会」とも協同しながら、会員相互の情報交換、親睦等といった各種連携・支援事業を行っていく予定です。 	<p>役員・活動報告</p> <p>役員</p> <ul style="list-style-type: none"> 会長(コース長): 石原 卓 幹事: 梶原 毅 石岡文生(工学部同窓会学内幹事, H14卒※) 田村俊輔 (H29卒※) <p>※環境理工学部 環境数理学科</p> <p>2021年度の主な活動 会則整備や役員選出等、同窓会発足に向けての準備</p>
--	--

化学・生命系 同窓会

<p>化学系生命学科同窓会活動報告</p> <p>役員</p> <ul style="list-style-type: none"> 共同代表 西田 良祐(S58卒、化学系) 井口 勉(S46卒、生命系) 報告者 内田 哲也(H4卒、化学系)幹事(学内) 二見淳一郎(H6卒、生命系)幹事(学内) <p>活動概要 卒業記念集合写真の撮影と配布を実施した (コロナ禍のため、セミナーや総会は実施できませんでした。)</p>	<p>2. 卒業記念集合写真の撮影と配布(H21年度開始)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業記念集合写真(学生と職員全員)の撮影と配布   <p>化学系生命系学科(1号館に卒業提出)の卒業生 自然科学研究科 応用化学専攻の修了生</p> <p>・その他 卒業生連絡先の集計と管理</p>	<p>2. 卒業記念集合写真の撮影と配布(H21年度開始)</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業記念集合写真(学生と職員全員)の撮影と配布   <p>化学系生命系学科(6号館に卒業提出)の卒業生 ヘルスシステム統合科学研究科 バイオ・創薬部門 の修了生</p> <p>・その他 卒業生連絡先の集計と管理</p>
---	---	--

職場紹介



株式会社フジワラテクノアート
プロセス開発部 課長

妹尾 佐都子

物質生命工学専攻 修士課程修了
(05年3月卒)

私が17年間勤めている株式会社フジワラテクノアートは、岡山県岡山市北区に拠点を構える醸造機械のトップメーカーです。和食に欠かせない醤油・味噌・清酒・焼酎などの醸造食品を製造するための様々な機械装置を製造・販売しています。小さな機械設備からトータルエンジニアリングによる大型プラント建設まで、お客様の幅広いニーズにお応えするオーダーメイドのものづくりを通じて、日本食文化の更なる発展に貢献する企業です。

当社の主要製品の1つである製麴(せいぎく)装置は、醸造において最も重要な工程である「麴づくり」を担う機械装置です。製麴とは、蒸した米や大豆などの穀物原料を基質に用いて麴菌(こうじきん)を培養する工程です。つまり、製麴とは麴菌を固体培養することであり、麴とは麴菌の固体培養物です。

古くから発酵食品を通じて日本人に馴染みの深い麴菌は日本の国菌であり、その最大の特長は酵素の生産能力の高さです。麴菌は「酵素の宝庫」と呼ばれるほど酵素の生産性が高く、製麴される間に様々な菌体外酵素を分泌します。更に麴菌は、液体培養に比べて、固体培養ではより多くの種類の酵素を大量に生産する能力を有しています。私たちはこれまでに、取り扱う麴菌の性質を把握した上で、最適な培養条件を検討し、お客様が望まれる品質の麴をつくり出すための固体培養技術を蓄積してきました。つまり私たちの仕事は、単に製麴装置(ハード)を製造・販売するだけでなく、目的に応じた品質の麴を得るためのノウハウ(ソフト)も一緒にお客様に提供することです。

当社は今年で創業89年を迎えました。私たちは、長年醸造の分野で培ってきた基盤技術を醸造以外の分野でも活かし、心豊かな循環型社会への貢献を目指します。そして2050年の企業イメージを描いた「開発ビジョン2050」を策定するとともに、3年前に正式にSDGs宣言を致しました。SDGsの17項目のうち、特に関係の強い8項目に焦点を当て、開発ビジョンの実現に向けた様々な研究開発に取り組んでいます。

そのひとつが、機能性飼料の開発です。現在私はプロセス開発部に所属し、機能性飼料開発プロジェクトのリーダーを担当しています。機能性飼料とは、家畜向け



のサプリメントのようなものです。牛や豚、鶏などの家畜が摂取している飼料の1つに小麦フスマ(小麦の表皮を粉砕したもの)があります。この小麦フスマを基質に、麴菌を固体培養してできたフスマ麴が機能性飼料になります。フスマ麴には、麴菌が生産したアミラーゼやプロテアーゼをはじめとする様々な分解酵素がたっぷり含まれています。このフスマ麴を、家畜の飼料に1%程度添加することで、家畜の体内で飼料の消化が促進され、飼料効率の向上が期待されます。私たちが機能性飼料開発プロジェクトで取り扱う麴菌は、野生の麴菌とは異なり、特定の分解酵素をより高生産するように育種された特別な麴菌です。植物性原料を主とする飼料の分解をより効率的に行うため、キシラナーゼやペクチナーゼなどを高発現するよう育種しました。つまりフスマ麴の中には、麴菌が一般的に固体培養で生産するバラエティ豊かな複合酵素に加え、より生産性を強化した特定の分解酵素が大量に含まれています。さらに麴菌の酵素以外に注目しているのは、麴菌の菌体そのものです。麴菌の細胞壁を構成する多糖類には免疫賦活作用があると考えられます。フスマ麴には大量の菌体も含まれており、摂取した家畜の免疫力の向上が期待されます。私たちは、地元農業高校と共同で、このフスマ麴を鶏に給餌する試験を行いました。その結果、産卵率の向上や卵殻強度の向上など、畜産物の生産性向上に繋がるデータが得られました。この他にも、鶏の糞量低減や飼料効率の向上、ストレス緩和など様々な効果に期待して開発を進めています。今後、この機能性飼料開発の事業化を目指し、醸造技術を原点とする新しい食糧生産システムを提供することによりSDGsに貢献したいと考えています。

私が入社した平成17年当時、社員数は80名程度であり、そのうち女性は私を含め7名でした。現在の社員数は140名を超え、女性も28名まで増えました。女性の割合が増えるとともに、若手社員の割合もどんどん増え、性別や年齢など関係なく皆が働きがいを感じられる職場づくりが進められています。また、入社当時は業務内容も現在とは異なる点が多く、どちらかと言うと機械メーカーの色が強かったのを覚えています。私の業務内容は機械装置の開発やテスト運転などがメインであり、学生

時代に学んだ遺伝子工学や免疫学の知識はほとんど必要とされませんでした。ところが、今では、学生時代の知識や経験が必要とされる場面の方が多くなりました。

私は現在、博士の学位を取得するため、社会人ドクターとして東北大学大学院農学研究科に在籍しています。東北大学での研究テーマは、機能的飼料開発プロジェクトにも関係が深い麹菌のクローニング技術や、麹菌による有用酵素生産に係るものです。当社には社会人ドクター取得支援制度があり、働きながら学位を取得することができます（もちろん必要な費用も全て会社が負担して下さっています）。学位取得のために必要な単位の一部を、他大学で取得した単位をもって振り替えることができると知り、母校である岡山大学にお願い致しました。実は、今回寄稿のお話を下さった二見淳一郎先生にはそこで初めてお世話になりました。コロナ禍であったため、オンライン授業となっていました。二見先生の講義を繰り返し何度も聴講させて頂きながらレポート作成したのを覚えています。同じく単位取得のため、世良貴史先生にもお世話になりました。世良先生の講義では現役の学生さん達に混ざって一緒に聴講させて頂くという、大変貴重な体験をさせて頂きました。そして、現在も共同研究等で大変お世話になっている徳光浩先生、金山直樹先生（17年前から時間が止まっているのかと思うぐらいお若い!）と、卒業後もあらゆる場面でご相談に乗って下さっている曲正樹先生（曲先生も学生時代から変わらず若々しくてパワフル!）にも、心より感謝を申し上げます。また、学生時代の担当教授である大森斉先生とは今でも頻繁に連絡をとらせて頂いており、大森先生が撮影された美しい植物や昆虫の写真が添付されたメールを拝見しながら仕事の息抜きをしています。

このように、私自身、岡山大学を卒業後も多方面で先生方にお世話になっていますが、最近では職場の別の場面でも母校との繋がりを感じています。そのひとつとして、今年の1月1日付で当社の代表取締役社長である藤原恵子が、岡山大学の理事（非常勤）に就任致しました。また、今年の4月から岡山大学大学院環境生命科学研究科にて寄付講座「微生物インダストリー講座」を開講致しました。微生物インダストリーとは、麹菌をはじめとする微生物の潜在能力を引き出して高度に利用する産業分野を示します。当社が得意とする固体培養技術は、有用な微生物を大量培養することにより、酵素などの有価物を省エネルギーかつ高効率に生産します。私たちは、今後、微生物の持つ潜在能力をゲノムレベルでコントロールするとともに、それを高度に応用する技術を開発し、様々な産業分野に展開していきたいと考えています。それは当社の原点である醸造はもちろん、食糧、飼料、エネルギー、バイオ素材などあらゆる産業分野が考えられ、近い未来に世界が直面すると思われる数多くの課題克服に貢献することが私たちの使命であると考えています。今後さらに産学官の連携を強め、「共に思い、共に創る」という共創により、この岡山から微生物インダストリーを世界中に展開していきます。



日本精工株式会社

盛 真唯子

産業創成工学専攻 博士後期課程修了
(10年3月卒)

こんにちは。日本精工株式会社の盛と申します。当社（以降、NSK）は、主にベアリングの開発、製造、販売を行う会社です。シェア国内第一位、世界第三位の、最大の企業です。創業は1916年、前年に国内で初めてベ

アリングの量産を行いました。機械系の学生さんであればよくご存じだと思いますが、ベアリングは回転部分になくてはならない部品で、ほぼすべての装置に入っているといっても過言ではありません。自動車はもちろん、工作機械、風車、パソコン、洗濯機、新幹線、ドローンなど、多くの機械に内蔵されています。“産業の米”とも言われ、製造業の基幹となる部品です。したがって、自然災害や戦争などで産業が減退した時、ベアリング需要の上向きが、復興への最初の兆しとさえ言われます。ベアリング自体は、大変単純な構造です。基本的に内輪、外輪、転動体、保持器で構成され、潤滑を生むグリース

が封入されています。かのレオナルド・ダ・ヴィンチが描いたベアリングと、今もあまり変わらない形状をしています。しかし、科学技術の発展に伴い、様々な装置や機械が生まれるにつれ、ベアリングも進化を遂げてきました。一般の方々の目に触れることはありませんが、縁の下の力持ちとして、社会を支えています。このような基幹部品を扱うNSKは、社会への影響力、果たすべき役割も大きく重要です。

ここまでベアリングのお話をしましたが、わたしが所属する部署は、実はベアリングとは直接には関係ありません。「新領域商品開発センター」という名前からわかるように、ベアリング以外の領域で社会に貢献し、会社を成長させる事業を立ち上げる部署になります。事業を立ち上げるといっても、技術開発本部に所属する部署ですので、基本的には技術開発が主な仕事になります。

わたしの仕事の具体的な話をする前に、わたしの大学時代の話から始めましょう。わたしは、岡山大学大学院自然科学研究科システム構成学研究室で、博士後期課程を修了しました。担当教授は、現在東工大に移られている鈴森康一教授です。当時からおられた神田岳文教授が、現在も同研究室にいらっしゃいます。学生の時は、レスキューロボットやアクチュエータの研究を行っていました。アクチュエータ開発としては、水圧式の超高出力人工筋を開発し、土木作業や災害現場で稼働するような大きなロボットハンドに適用しました。大きな力を発揮しながら、対象物に倣うという柔らかい動作の両方を実現するハンドでした。2010年に卒業し、4月からNSKに入社しました。わたしは博士号を取りましたが、大学ではなく、民間企業に就職しました。大学入学当時、NHKのプロジェクトXという番組（今の若い方はもう知らないかもしれませんが）ばかり見ていたので、山あり谷ありの熱い開発秘話に憧れ、〇〇株式会社の〇〇開発センターに所属している自分というのが潜在意識に刷り込まれていたようです（最近、プロジェクトXのせいだと気づきました）。こうして、本当に、その通りになりました。

ここからは、NSKに入社してからの話になります。先ほど、わたしの仕事はベアリングとは関係がないと申し上げました。それは、わたしがこれまで携わった装置が、細胞を操作するマニピュレータ、視覚障害者を案内するガイダンスロボットなどであり、ベアリング単体ではなくシステム製品であるという点で、“関係がない”という意味です。もちろんベアリングやボールねじなどのNSKの製品を内蔵しておりますが、それ単体の性能を突き詰めるのではなく、システム全体の性能をエンド



UCB入り口



UCB図書館

ユーザー目線で向上させていくという点が、NSKの従来事業と大きく異なる点だと思います。思えば、時期によっては、本当にプロジェクトXに近いような状況もありましたが、結構楽しく仕事をしていました。このように書くと、今はもう終わってしまったように聞こえてしまうかもしれませんが、そんなことはありません。今、またも新しい開発が始まろうとする入口に立っております。実は、2019年～2021年の2年間、わたしはアメリカに留学していました（カリフォルニア大学バークレー校）。NSKからの企業派遣で、よい経験をさせてもらい、ありがたいことです。そこでは、柔軟で不定形なものをより複雑なシステムを使うことなくハンドリングするロボットハンドの開発を行っていました。この2年間は、完全に仕事から離れ、卒業して約10年にして、再び学生として研究をしました。今、帰国してから半年が経ち、NSKでの仕事が本格化してきたというわけで

す。アメリカ留学の話をもっとお知りになりたいければ、日本ロボット学会誌 Vol.40, No.2 をお読みいただければ幸いです。

少し話が反れてしまいました。ここから、ようやくわたしの仕事についてお話いたします。わたしの仕事は、基本的に研究室時代とあまり変わりありませんでした。ガイダンスロボットの例でご説明しましょう。エンドユーザーである視覚障害者の方に、プロトタイプを製作して提供し、意見をもらって改良を繰り返します。エンドユーザーの求める価値を言い換え、設計できるように定量的に表現するところがとても難しく、同時に面白いところです。例えば、ロボットがどんどん先に動くと、引っ張られているようで怖いという声があれば、ユーザーが歩いた時だけロボットへ速度指令が入るようにしようとか、どんなセンサを使うか、どのぐらいの加減速度にするか、障害物回避の感度はどれぐらいにするか、ロボットの形や形状はどのようにするかなどを定義します。開発フェーズがあがってくれば、プロト機のお試しだけでなく、病院や公的機関と協調し、被験者を公募して、実証試験を行います。この時の手続き（インフォームドコンセントや、安全対策など）など、機械や電装品の設計だけでなく、社会のいろいろな仕組みや、障害者の方々の声など、本当に勉強になることをたくさん知ることができました。その後、ガイダンスロボットは認証取得（ISO13482）をしましたが、その際の設計仕様書の整理、安全評価試験の方法定義、実際の実施など、こちらのフェーズでも自分のスキル向上だけでなく、ISO取得のプロセスの経験など、大学ではできない面白い経験ができたと思います。

今の仕事は、少し以前と違います。以前は、前述のように、開発すべき何か（例えば、ガイダンスロボ）があらかじめ決められていました。今は、その“何か”を探しに行くところから始めなければなりません。NSKの向かうべき方向性から、その先にいる想定顧客が求める価値をまず見つけ、その価値をどのように提供するのかに落とします。ここで初めて開発すべき何かが出てきます。よって、今では、想定顧客との人脈作り、潜在課題を見出すための外回りをしています。しかし、前述のように、それでも技術開発本部ですので、的を絞ったモノづくりを同時に行い、そのプロト機を見せながら、潜在課題を探ろうと試行錯誤しております。今の時代、コロナウイルスの感染拡

大などを経て、予想されてきた変化が思ったより早く起こっています。新しい産業をつくる大きなチャンスが訪れているわけです。そのために、どのような人が、どのような課題を持っているのか、それを引き出すためのスキルと知識を実践しながら磨いております。

最後になりましたが、岡山大学の卒業生の方、特に新社会人になったばかりの方が、この記事をもし読んでいただければと思います、わたし自身の意思表明を込めた、メッセージを記します。長年同じ領域にいと、誰にでも一銭にもならないプライドが出てきてしまうと思いますが、事業検討というのは、そのプライドをいかに潔く捨てられるかがポイントだと思っています。自分の知っている業界の外へ。自分が持っている知識の外へ、どんどん出ていかなければなりません。近頃、わたしが卒業する時に、前述の鈴森先生がおっしゃっていたことをよく思い出します。「謙虚でなければならないが、自信を持っていていい」。自信という芯が一本通っていれば、他人の細かい批判や一時的な否定にも、謙虚な姿勢で対処できるはず。そうしていれば、人や情報が集まり、賛同者が増えるでしょう。仕事をするということは、知識や技術を増やすことだけではなく、人柄を磨いていくことだと思っています。昨日の自分より、今日の自分がどんどん磨かれていくよう、精進していきたいと思っています。どこかでお会いしたら、ぜひ声をかけていただければと思います。



Amtrackの車窓 ユタ州



Amtrackの車窓 ネバダ州



Amtrackの車窓 アイオワ州



Yosemite valley

昨年来、コロナ禍の中にあり集まっていた活動ができない状況が続いてきました。その中でも、下記の通りZoomを利用した総会、講演会、親睦会等を開催し、また、岡山支部メールマガジンを定期的に発行して会員皆様との交流を図って来ました。また、令和4年4月6日には久々の集まっていた会である「吉備路古墳探訪」を楽しむことが出来ました。

活動の概要

■ 親睦会

- ・ R3.6.5 岡山支部総会 (Zoom) : 講演会 : 「太陽光発電の現状と動向」 船曳繁之氏 (S51電気工学科卒、S54修士)
- ・ R3.8.4 親睦会 (Zoom) : 話題提供「若者との交流を通して」 西尾照常氏 (S47生産機械工学科卒)
- ・ R3.10.28 親睦会 (Zoom) : 話題提供「地域の史跡探訪」及び「就実大学発ベンチャーの紹介」 小林東夫氏 (S46合成化学科卒、S49修士)
- ・ R3.12.9 忘年会 (Zoom)
- ・ R4.2.24 親睦会 (Zoom)
- ・ R4.4.6 拡大親睦会 : 「吉備の古墳群探訪」、場所 : 総社市備中国分寺北側の緑山及び稲荷山古墳群とその周辺。天候に恵まれ、小林東夫氏の案内で、この地域の代表的な古墳群である「緑山古墳群」、「稲荷山古墳群」、「鳶尾塚古墳」、「こうもり塚古墳」、「江崎古墳」等を探訪し、桜、桃、菜の花に彩られた美しい景色の里山約8kmを堪能しました。

- 岡山支部メールマガジンの発行 : 76号 (R3.7.10) ~81号 (R4.5.10) (隔月発刊)。支部行事案内・報告の他、寄稿(職業経験、趣味、ご当地案内、農業体験、世界事情など)など多彩です。寄稿を歓迎しています。配信希望の方は、岡山支部までメールで連絡下さい。また、岡山支部HPにて閲覧できます。
- 大学教育支援として、工学部・経済学部共同講義「実践コミュニケーション論」(http://www.e.okayama-u.ac.jp/practice_communication/)へ講師2名の派遣を継続しています。

● 岡山支部連絡先

Email: okayamauniveng@gmail.com

岡山支部HP

<https://okayama-u.sakura.ne.jp/wp/>

(会員専用欄 パスワード okadaieng)



「吉備の古墳群探訪」集合写真

岡山大学・工学部卒業生の皆様ご無沙汰しております。いかがお過ごしでしょうか?各位、ストレスを溜め込んで爆発しそうな状態だろうとお察しいたします。新型コロナ禍は2019年12月に中国・武漢で確認されて以降、世界で約2年半にわたり、世界中を混乱に巻き込み、幾種類かの変異株をへて、ここにきて日本ではやっと首都圏でも感染者はピークを越えて減少傾向がみられます。全ての国民の生活様式を変え、いまでは仕事も屋外や物流・生産現場をのぞき、テレワークが一般に浸透している状況です。

私の勤務するオフィスは神田の中心部にありますが、今では夕刻から深夜まで若者は元気に仲間で賑やかに懇親会やっています。一方で今年2月にはロシアによるウクライナ侵攻が始まり3ヶ月にもおよび、まだまだ終わりの見えない状況にあります。世界の政治・経済・パワーバランスの枠組みが大きく歪み、私達一般庶民にはデフレ経済下の物価高騰という厳しい生活を余儀なくされています。勘弁してほしいですね。もちろん関東支部の活動も2年間にわたり完全停止状態です。しかしやっと、2年間の休会

を経て今年来る7月に岡山大学全学同窓会（Alumni）東京支部として総会が開催予定です。工学部同窓会（関東支部）も同時開催いたします。若い卒業生の皆様にも参加していただければとの思いです。

さて2021年4月に新生工学部が誕生して一年が経ちました。岡山大学もますます国際的なアカデミー組織体として存在意義を発揮できると期待しています。経済成長が停滞した国内視点だけではなく、広く海外からも学生を通じて存在価値をアピールし、人的交流を拡大せねば次世代の技術も獲得できず国家が凋落してしまいますね。私が経営しているITサービス会社でも構造変化が起きています。巨大企業を頂点とするピラミッド下請け構造から得意分野を持つ様々な企業がネッ

トワークで新サービスをコラボレーションする形態へ変化する流れが起きています。自ら変化できる組織でなければあつというまに沈没です。まるで瀬戸内海の渦潮に翻弄される和船のようです。個人も法人も年齢に関係なく、新しいことにチャレンジしましょう。いろいろ最近の動向を書きましたが在校生の皆様には卒業後の連絡メールアドレスをしっかりと登録していただき、大学同窓会をはじめ、様々な人脈ネットワークに飛び込み、情報社会を有効活用していただき成功されますよう祈願します。最後に毎年のお願ひですが、皆様のおかげがない収入からお小遣いの一部を気持ちだけでも活動資金を捻出し寄稿をお願いしたいです。皆様のさらなるご発展を祈願いたします。

工学部同窓会関西支部活動報告

関西支部 支部長 真鍋 健次（S46年、電気工学科6期卒）

岡山大学工学部同窓会関西支部は、発足後9年目を迎えます。昨年度は、8月に予定されていたAlmni関西支部が新型コロナで延期になり、2月26日に予定した新春懇親会も中止をせざるを得ませんでした。

2021年（令和3年）11月13日に、大阪府高槻市で工学部同窓会関西支部の幹事会を開催し、新春懇親会の開催審議等を行いました。写真は、幹事会の様子です。

幹事会では、関西支部の新春懇親会を2月に実施す

る方針と、岡山大学に留学経験のある英国エジンバラ大学出身で在学中に交換留学生として岡山大学で10か月の留学経験のあるベサニー・カミングスさんを同窓会関西支部の特別会員にすることと、新春懇親会に招待することを決定しました。

なお、ベサニー・カミングスさんは、2018年から東京都大田区役所で国際交流員として勤務されています。

新型コロナ禍の影響で、2022年2月26日に予定した兵庫県での新春懇親会は中止になりました。

懇親会は実現できませんでしたが、ベサニー・カミングスさんから、「日本の印象と、イギリスとの大きな相違点」について次のコメントをいただきました。来日後相当な時期が経過していますので、主に「東京の印象」になったかもしれないとの注釈がありました。

- 1 自然が豊かなところが多くてきれいな国だと思う。
- 2 道にゴミ箱があまりないのに、ポイ捨て等をあまりみない。
- 3 イギリスに比べると本当に安全。財布を無くしたときに、誰かが交番にとどけてくれて本当に助かった。
- 4 街中に電柱がたくさんある（イギリスでは基本的に電柱は地中に埋められている。）
- 5 道が少し狭くて、車等も小さい。（日本の車はイギリスの車より四角い！）



6 街が本当に騒がしい。

- ・選挙カーやトラックからのアナウンス
- ・スーパー等で店員さんが大声で言う「いらっしゃいませ」や、セールス中の呼び声。
- ・パトカーもサイレンだけでなく、大声での注意がある。

7 先進国であるはずなのに、いまだにFAXやCD、印鑑などが使われている。

しかし、ペーパーレス化に積極的に取り組む会社が増えているようである。

以下、英国に2年間駐在経験のある大森による英国生活でのコメントも付記します。

36年前に英国ウエールズに2年間赴任した私の経験では、ベサニーさんの指摘は、もっともであるとの印象を受けました。

電柱の地中化、街頭の騒音低減は、先進国として、もっと積極的に進めてほしいと思います。イギリスの公園では、litter（ゴミ）と表示したごみ入れが多く設置されているのが、印象的でした。ゴミ箱は英国表示では、litter bin、米国表示ではtrash canで、米語と英語の差にも戸惑いました。

日本は、米国を含めて四季の変化が多く、自然に接する機会の多い国であり、日本の素晴らしさを改めて実感しました。

赴任当時は、まだテレックスの時代で、FAXも普及していませんでした。その後赴任した米国では、FAXは、日米の時差を有効に利用できたので、本当に便利になったとの印象を受けました。帰宅時の夜に送信したFAXの返信が翌朝には来ていました。

なお、この機会を利用して、私が英国赴任時等で経験したことを報告します。

イギリス赴任時は、英国のローカルエリアでもあったので、B&B（食事付簡易宿泊設備）に滞在しました。

週末の時間を利用して、B&B周辺を散歩していたときに、老人と出会い、「日本人か？」と質問を受けました。そうだと答えると彼は、彼の滞在している家に案内してくれました。

そこで、奥さんからお茶の接待を受けました。

そこで、彼が見せてくれた古い書類には日本の新聞記事があり、第二次大戦中にタイ戦線で捕虜になり、鉄橋建設（あの有名なクワイ河に架橋した鉄橋）に従事し、その後日本に送られて大牟田の炭坑で働かされ

たとのことでした。

戦後、英国に帰国してロンドンで働いて、退職したので、ウエールズのリゾート地である近所に越してきたとのことであった。

そこで、会社の年配の人に会いたいとの話を聞いた。会社には伝えようがないので、手持ちの日本のカレンダーを届けてそのままになっていました。

数か月後に、その人は、転居カードを私のポストに入れて転居しました。

英国赴任後、ウエールズの首都であるカーディフのカーディフ城を見学した時に、城の隅にあった展示室に日本兵の鉄兜、飯盒、旗等が展示されていたのを、複雑な気持ちで見た記憶があったので、少しホッとした気持ちになったのを覚えている。

その老人も、日本人にその後会う機会が少なくなったのでほっとしたかもしれません。

戦後、40年以上経ってそうした体験をするとは、予想もしていなかったもので、その後海外に行く機会があった時に、それなりの覚悟を持つことができました。

なお、その後海外では、次の赴任先の米国で米国兵の戦争花嫁となった日本人女性と知り合う機会を得ました。（ご主人とは岩国で知り合ったとのことで、米国移住後にご主人は演習時（？）の事故で亡くなったとのことでした。その人は、英語ができなかったもので、その後の消息は分からないままになっています。私の息子が現地校に通っていた関係から同級生の彼女の息子さんと知り合い、それを通じて交流する関係になっていました。）

日本帰国2年後に、ソーラーカーレースで出張したオーストラリアのダーウィンで、撃墜された日本のゼロ戦戦闘機が展示されていました。2000年を過ぎたインドネシアでも、ボルネオ島で、日本の軍票を保持・展示している地方の事務所を訪問したことがあります。（このときは、日本軍の軍票の写真も撮らせてくれませんでした。）

今年の2月24日にはロシアによるウクライナ侵攻が勃発しました。国際協調もよいが、唯一の被爆国であり、戦争放棄の平和憲法を護持する日本として、国連の弱体化も言われているので、日本が世界平和の先頭となる役割を果たすことができたら願っています。

（以上文責：昭和42年電気工学科卒 大森 勝）

岡山大学での思い出と近況

(株)NTTドコモの嶽未南子と申します。2017年3月に岡山大学工学部電気通信系学科を卒業後、現職の(株)NTTドコモに入社し今年で6年目となります。

岡山大学に入学するきっかけと在学中の思い出、卒業後の近況報告についてお話をさせていただきます。

1. 進学のきっかけと在学から就職まで

私が岡山大学工学部に入学したきっかけは、高校生時代の夏に行ったオープンキャンパスでした。

当時から当たり前に使っていた携帯電話・インターネットに対し、初めて素晴らしさを感じるとともに、目には見えないその技術に魅力を感じ、岡山大学工学部電気通信系学科に進学することを決めました。

在学中に通信方式やプロトコルなど通信技術に関わる講義を履修しながら、卒業後は人々の当たり前を支える通信に携わる仕事をする事で社会に貢献したいと考え、現職のドコモに入社しました。

2. ドコモにおける業務経験について

ここからは、ドコモに入社してからのこれまでの取り組みについてご報告させていただきます。

(1) 新入社員研修とドコモショップ研修

新入社員研修期間の半年間は姫路支店に配属となり、営業部、法人営業部、ネットワーク部のローテーション研修、ドコモショップ研修を受けました。ドコモショップ研修では料金プランのご提案や各種サービスのご案内などショップスタッフを経験しました。入社以前には私がお客様としてドコモショップで携帯電話の契約と機種変更をしたことがありましたが、逆の立場になって初めてお客様目線に立ったご提案をすることの難しさを学ぶとともに、小さい子どもからお年寄りの方まで本当に様々なお客様にご利用頂いている事を実感しました。

(2) 無線局データ業務

姫路支店での研修後は、(株)ドコモCS関西 ネットワーク建設部 無線アクセス建設部 無線局データ担当に配属となり、関西エリアの基地局の局データを作成する仕事に携わりました。無線局データとは基地局を動かすために必要なデータで、例えばハンドオーバーをするための設定やキャリアアグリケーション、5GではNSAに必要なEN-DC設定など様々な情報を設定しています。

局データを作成する仕事は直接お客様と関わることはありません。設計部門からの基地局の設計データをもとに装置種別や型番を設定したり、設置場所の緯度経度などの情報をもとにキャリアアグリケーションやハンドオーバー対象を検討したり、エリア品質部門による品質調査の結果から一部パラメータの個別設定を受けて変更

したり、新しい機能を導入に伴い局データを変更したり、とにかく期日までにミスなく局データをリリースする事がミッションです。しかしながら、局データの設計ミスが発生するとお客様に直接影響を及ぼす可能性があります。例えば基地局の装置が立ち上がらない、品質が悪くなり通信が途切れてしまうなどの影響があります。最悪の場合は関西の局データ全てを誤ってしまう可能性もあるため、常に危機感を持って業務を実施しました。

NSAの5G導入の際の局データ設定にも携わることができたのもとても貴重な経験でした。先輩方に教えて頂きながら局データ設計の考え方を習得し、5Gの局データを設計するツール作成に取り組みました。無事に装置が運用開始した際はとても嬉しかったです。

(3) 本社 システム主管

入社5年目からは(株)NTTドコモ サービス運営部 アクセス技術 無線ネットワーク運営推進担当に配属し、無線局データを生成するシステム主管の仕事に携わっています。北海道から九州まで全支社の無線局データ担当とやり取りをさせて頂き、システムの故障対応や局データ設計に関するお問い合わせ対応、また新機能の導入に伴いシステムアップデートの為に全国会議の運営や新規パラメータを支社にリリースをしています。システムの確認やシステム間の疎通確認を行う際には大学時代に学んだプロトコルやプログラミングの知識を活かしており、改めて業務を通じて理解が深められていると思います。

システムを使う立場から運用する立場に変わり更にお客様と直接関わる仕事ではなくなりましたが、私の周知内容が全支社に正しく伝わらなければ支社で正しく局データを作成できず、結果としてお客様に影響を及ぼす可能性があることを意識しながら業務を行っています。引き続きお客様の通信を維持しながら高度化に貢献したいです。

3. 振り返りと今後の展望

寄稿させて頂くにあたりこれまでを振り返りますと、オープンキャンパスへの参加をきっかけに通信に興味を持ち、大学卒業後の現在も通信の仕事に携わることができているのはとても有難いことだと感じています。これからもお客様の当たり前を通信で支えられるよう、私らしさを忘れずにキャリアを築いていけたらと思っています。



NEWS

「共育共創コモンズ」が誕生します

工学部長 菅 誠治

岡山大学津島キャンパス内に、新工学部の設立を記念し、新工学部の学生が学ぶとともに、地域・企業の皆様方との協働を充実させることを目的とした「共育共創コモンズ」を建設が始まりました。この施設は新工学部の教育プログラムの目玉の一つである建築教育プログラムと深く関連しています。この新しい教育プログラムを進める上で、令和2年4月より岡山大学特別招聘教授にご就任いただいている世界的な建築家・隈研吾先生に多大なるご指導を仰いでおりますが、「共育共創コモンズ」は隈先生の設計・監修によるものです。

岡山大学はユネスコチェアを持ち、環境理工学部が中心的な役割を果たしながらESDを推進してきました。この伝統を受け継ぎ、岡山地域や国際社会と一体となってSDGsを推進する責任があります。「共育共創コモンズ」は、カーボンニュートラルや脱炭素社会に貢献する、環境に優しい木質系材料CLT（Cross Laminated Timber）を活用した木造建築です。CLTはひき板（ラミナ）を並べた後、繊維方向が直交するように積層接着した木質系材料であり、1990年代から注目されてきた素材ですが、近年では、欧米を中心にCLTを使った高層建築が建てられるなど、世界各国で急速な伸びを見せています。森

林は二酸化炭素を吸収して温暖化防止に貢献しますが、森林リサイクルの視点でも木材利用は非常に重要であり、CLTは大注目の建築素材です。

「共育共創コモンズ」建設計画は、このCLTを利用した岡山大学、そして、新生岡山大学工学部の発足のシンボルとなる建物を創りたいという榎野学長の強い思いに隈研吾先生がお応えいただき、設計から施工監理までの監修を引き受けていただいた結果、実現したものでございます。2階の講義室は定員300名の大講義室であり、新工学部の新しい学びの場となります。また、様々な講座やワークショップや社会人と学生が集いアイデアを競いあうハッカソンなども開催する場としても活用いたします。1階は「共創ラボ」であり、多様な共同プロジェクト、共同研究用のスペース、海外から招聘する研究者の居室としても使用する予定です。

去る2022年4月27日に起工式が執り行われ、建設作業がスタートしました。この学び舎建設のために同窓会の皆様にも多額のご寄付を頂戴いたしました。工学部長として心より感謝と御礼を申し上げます。次年度の会報では完成しました！とのご報告ができると思います。乞うご期待！！



鋤入れを行う榎野博史学長



模型を前に説明する隈研吾特別招聘教授（右）

同窓会会計報告（令和3年度）

一般会計

収支計算書

令和3年4月1日～令和4年3月31日

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
I. 収入の部				
1. 入会金収入 会費収入	5,020,000	4,820,000	200,000	482名 @10,000×482名
2. 寄付金収入 寄付金収入	456,000	1,177,147	△ 721,147	586名 1,302口
3. 雑収入 同窓会報掲載料	30,000	0	30,000	コミュニティー広場
受取利息	110,000	114,825	△ 4,825	普通、郵貯、有価証券
帳簿価格との差額分	1,302,657	1,302,657	0	外貨MMF（豪ドル）解約
当期収入合計(A)	6,918,657	7,414,629	△ 495,972	
前期繰越収支差額	4,900,721	4,900,721	0	
収入合計(B)	11,819,378	12,315,350	△ 495,972	
II. 支出の部				
1. 事業費	3,955,000	3,349,330	605,670	
通信運搬費	1,190,000	1,208,708	△ 18,708	会報郵送料 他
会議費	140,000	0	140,000	
学部教育支援経費	60,000	0	60,000	
旅費交通費	100,000	0	100,000	
印刷製本費	2,015,000	2,010,033	4,967	会報 他
消耗品費	10,000	9,655	345	製本テープ 他
助成金支出	400,000	78,239	321,761	新生工学部発足記念シンポジウム 他
同窓会活性化経費	20,000	30,385	△ 10,385	レンタルサーバ 他
雑費	20,000	12,310	7,690	振込手数料 他
2. 学科事業費	1,116,000	1,083,000	33,000	
学科配分会費	1,116,000	1,083,000	33,000	361名 @3,000円
3. 管理費	2,223,000	2,000,207	222,793	
業務委託費	500,000	500,000	0	(公財)岡山工学振興会
〃	1,587,000	1,370,767	216,233	同窓会員名簿住所調査 小野高速印刷(株)
〃	66,000	66,000	0	同窓会員データメンテナンス 小野高速印刷(株)
〃	70,000	63,440	6,560	工学部60年史(私費分)回収経費 小野高速印刷(株)
当期支出合計(C)	7,294,000	6,432,537	861,463	
当期収支差額(A)-(C)	△ 375,343	982,092	△ 1,357,435	
次期繰越収支差額(B)-(C)	4,525,378	5,882,813	△ 1,357,435	

基金特別会計 収支計算書

令和3年4月1日～令和4年3月31日

(単位：円)

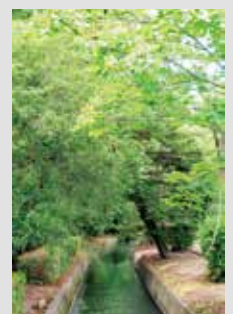
科目	決算額	備考
I. 収入の部		
1. 寄付金収入 寄付金収入	0	
2. 雑収入 受取利息	143,802	有価証券
当期収入合計(A)	143,802	
前期繰越収支差額	4,386,579	
収入合計(B)	4,530,381	
II. 支出の部		
1. 事業費		
当期支出合計(C)	0	
当期収支差額(A)-(C)	143,802	
次期繰越収支差額(B)-(C)	4,530,381	

表紙の写真

座主川の新緑

岡山大学津島キャンパスを東西に流れる座主川。昔は生活排水で汚れていましたが、今では環境が非常に良くなり、岡山大学の学生・教職員に四季が移ろう姿を楽しませてくれています。

Photo: 押木俊之



2022年度 岡山大学工学部同窓会総会・懇親会の開催について

本総会では、新生「工学部」の設立による学部組織の再編に対応した「工学部同窓会」の同窓会会則の改正や幹事会の新体制を提案します。また、総会後には、懇親会を予定していますので奮ってのご参加をお待ちしています。但し、コロナ禍の状況によっては集まっての開催はできなくなる可能性もあります。その時は、工学部同窓会ホームページ、及びメール（登録者）にてお知らせいたしますのでご確認下さい。

工学部同窓会総会

日 時：2022年10月22日(土) 15:30-16:30 (受付開始 15:00)
場 所：岡山大学工学部1号館1番教室 (本館1階)
議 題：①工学部同窓会会則改正、②工学部同窓会幹事会の体制について、③学部の活動報告他

工学部同窓会懇親会

(総会後、17:00-18:30; 受付開始 16:30)

場 所：岡山大学南福祉施設ピーチユニオン4階
懇親会費：2,000円 (含アルコール、会費以上の内容です。工学部同窓会総会受付にてお支払いください。)

事前参加申し込み：メール (工学部同窓会事務局、ofst@okayama-u.ac.jp) にて、氏名、学科、卒業年、連絡先等を、10月7日(金)までにご連絡下さい。コロナ禍で変更の可能性もあります。詳細は工学部及び工学部同窓会HPでご確認下さい。

同窓会事務局より

同窓会報、ホームページへの寄稿のお願い

会員の皆様からの寄稿をお待ちしています。掲載記事の内容、書式等は、既報の会報、HPを参考にして下さい。なお、内容により事務局・監事等で採否の判断、一部変更等をお願いすることがありますのでご了承ください。

支部活動の助成について

工学部同窓会の支部が、総会、懇親会等を行う場合に、通信費 (小野高速印刷(株)を利用した実費) 及び懇親会等の会合に要する経費 (50,000円/年) を助成します。詳細は事前に事務局にご相談下さい。

住所変更等の連絡のお願い

会報は全員に登録された住所に配布しています。住所変更がありましたら、メールまたはハガキ等により、お名前、住所、卒業学科 (専攻)、卒業年度、電話番号、メールアドレス等 (差し支えない範囲で) 事務局までご連絡下さい。会報以外の情報もメールにて提供します。

寄付のお願い

同窓会は、皆様からの格別のお力添えに支えられて今日まで活動を行ってまいりました。また、事業継続と今後一層活発な同窓会にするためには、皆様からのご寄付に頼らざるを得ません。ご寄付は、一口千円からですが、ご厚意に応じて何口でも結構です。よろしくごお願い申し上げます。

郵便振替 01270-4-5233 岡山大学工学部同窓会

* 同封の郵便振替用紙またはコンビニ支払い用紙をご利用下さい。通信欄にはお名前、住所、卒業学科 (専攻)、卒業年度、電話番号、メールアドレス (差し支えない範囲で)、会報への氏名掲載の可否等をご記入下さい。

編集後記

コロナ禍が長引く中ですが、少しずつ対面講義が増えてきて、学内で学生との明るい声を聞く機会が増えました。学生時代という大切な時間の経過は取り戻せないものですから、なるべく早くコロナ前の日常が戻ってきて、通常の研究活動ができるようになればと、一教員として思う今日この頃です。この上にも掲載がありますように、工学部同窓会も、新体制になってから初めての対面形式での開催を予定しております。卒業生の皆様におかれましても、ぜひこの機会に、久しぶりに母校へ足をお運びいただければ幸いです。

ところで冒頭の代表幹事の挨拶をご覧になってお気づきになった方もいらっしゃると思いますが、2021年の秋に、代表幹事が酒井貴志名誉教授 (1970年 合成化学科卒) から、船曳繁之名誉教授 (1976年 電気工学科卒) へ交代されました。酒井先生

は2012年の春から代表幹事をお務めになり、会報のカラー化やホームページの刷新など、目に見える形で同窓会の活性化を図られるとともに、工学部の改組に伴う工学部同窓会の再編にも尽力されました。学内幹事が同窓会活動を行いやすいように、酒井先生には色々なご配慮をいただきました。学内幹事の一人として、長年のご尽力に心から御礼申し上げます。

本号では、11、12ページに、新たな体制となってから初めての、各系、コースにおける同窓会活動をご紹介します。卒業生の皆様におかれましては、現在の工学部同窓会の活動をご理解いただき、今後とも、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。本年度も、多くの方からご寄稿をいただきました。末筆ながら、ご多用のところご執筆いただきました皆様へ、厚く御礼申し上げます。

2022年度 学内代表幹事 大西 孝 (2006年 機械工学科卒)

■編集・発行：岡山大学工学部同窓会事務局

〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学新技術研究センター内
TEL・FAX (086) 255-8311

■メールアドレス：ofst@okayama-u.ac.jp ■ホームページ：<http://oka-u-eng-alum.sakura.ne.jp/>

■印刷所：小野高速印刷(株) 〒670-0933 姫路市平野町62 TEL (079) 281-8837